



地域おこし協力隊 農業支援員

いし ま あきら
市島 聡さん(36歳)

着 任▷平成30年4月
出身地▷豊富町

「間もなく、協力隊の任期を終えますね。」

来年3月末なので、残り4カ月余り。ひとりでいうと、濃密な時間でしたね。これまでも、幕別町や今金町、仁木町などで畑作を学んできましたが、就農先を厚真町に選んで良かったと思っています。来春からの経営を考えると、胃は痛いですが、今は、5年後に農業収入で生活を安定させることを目標に気持ちを高ぶらせています。

「研修中に得たものをお聞かせください。」

今は、軽舞地区で暮らしています。着任当初は、どうやって地域の人と関わりを持つとかが悩んでいましたが、まったく心配する必要はありませんでした。協力隊を卒業した農家の先輩がいて、春のお祭りの時に地域の皆さんに紹介してくれました。皆さん、

すぐに温かく迎え入れていただき、気にかけてくれるようになったのです。栽培の仕方や農家経営のことなど、本当に気さくに教えてくれます。

農業の経営者として尊敬する人ばかりです。これまで順調に過ごせたのは、研修農場の指導者や地域の皆さんのおかげで、感謝しかありません。早く一人前にならなければというプレッシャーも感じていますが、人という財産ができたことが大きな喜びです。

「任期終了後の予定を教えてください。」

上野地区の農地を借りて営農する予定です。手の届く規模でホウレンソウとミニトマト、カボチャを栽培し、農業収入の安定を目指します。大好きな畑の中にある時間を増やし、信頼される農家になって皆さんに恩返ししたいと思います。

厚真町地域おこし協力隊

任期を終えるにあたり

3年間の任期を終えてそれぞれの道を歩む市島さんと福本さんに新たなスタートに向けた思いを伺いました。

「来年3月末で任期を終えますが、今の心境はいかがですか？」

振り返ると、本当にあっという間すぎて、濃厚な3年間でした。着任から半年後に胆振東部地震に遭遇し、改めてコミュニケーションの大切さを知りました。自分と向き合う貴重な時間を過ごすことができました。自分が見つけたいことは何なのかを見つけていくことができました。不安はありますが、自立の準備は整いつつあります。

「具体的な青写真は、どのようなものですか？」

当初、美容師として自分のお店を持つのが夢でした。1つの仕事をやり遂げなげやと思っていたのです。しかし、震災をきっかけに考え方は変わりました。私も2週間、避難所で暮らしましたが、不安や悩みを抱える高齢者が多かったのです。訪問カッターで

「相手のニーズに合わせて柔軟性ある仕事をするということですね？」



起業型地域おこし協力隊

ふくもと みさと
福本 深里さん(40歳)

着 任▷平成30年4月
出身地▷恵庭市

「髪を切っている最中に、悩みを聞いたり肌の調子を見て食事の改善を促したりしました。元々、美容療法(ビューティータッチセラピー)やカウンセリングの資格があったので、美容師をしながら資格を組み合わせて新たなビジネスができるんじゃないかと思うようになりました。自分の店を持つのは憧れですが、今は技術と資格を有効に活用して自立しようと思っています。」



Vol.252

厚高インフォメーション Atsuma High school Information



学校の取り組みをご覧ください。
厚真高校ホームページ
<http://www.atsuma.hokkaido-c.ed.jp/>

■インターンシップ(10月20日)

1年生32人が、林業体験バスツアー(主催・胆振総合振興局林務課、胆振地域林業担い手確保推進協議会)に参加しました。

午前中は、2年前の胆振東部地震で山腹崩壊した高丘地区で森林の復旧作業の様子を見学し、午後から苫小牧市内のヨシダ製材工場を訪問しました。山から切り出した丸太を加工する作業を間近で見ることができました。

■ドライバーズセミナー(10月20日)

苫小牧ドライバーズスクールで、3年生17人がドライバーズセミナーを受

講しました。シートベルト体験や自動車の内輪差の確認、ゴーグルを使った飲酒状態体験など、実際に体験することで、自動車の利便性や危険性を学びました。

■交通安全街頭啓発(10月21日)

1年生32人がごぶしの湯付近の道道沿いで、交通安全街頭啓発を行いました。厚真高校教育振興会から寄贈された交通安全ののぼりを掲げて小旗を振り、道行くドライバーに安全運転を呼びかけました。

■豊富高校と遠隔授業交流(11月2日)

酪農が盛んな豊富町の豊富高校と、遠隔システムを使った家庭科の交流授業を行い、本校の3年生12人と豊富高校9人が親交を深めました。

■職場体験学習(11月10日~12日)

2年生12人が3日間、町内で職場体験学習を行いました。事業所のご協力により、生徒はいろいろな体験ができました。実際に働いている人を間近で見、自分の適性に気づいたり、働くことについて考えることで、数多くの発見につながりました。

短歌

あつま文芸友の会発行「文芸あつま第二十四号」から抜粋
震災の傷跡深き今なれど師走を迎へて為すこと多し
ひと晩ですつしり雪をまといし木目日差し当たりて別世界のよふ 新町中田充子
これ夢か夢ならさめて目の前はポイラー倒れこれは現実 京町木村百合子

発表します!! 将来の夢&目標

上厚真小学校6年

みかみ かなな
三上 葉奈さん

ひのち ちか
白野 百花さん

ふじの あおぼ
藤野 蒼波くん

はまじま みづき
濱島 美月さん

ながお けいあ
長尾 結愛さん

やすだ ゆきひ
保田 志悠さん